

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4674900198
法人名	医療法人 幸望会
事業所名	グループホーム 第二スマイル園
訪問調査日	平成20年4月16日
評価確定日	平成20年5月16日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4674900198
法人名	医療法人 幸望会
事業所名	グループホーム 第二スマイル園
所在地	出水郡長島町鷹巣2093-1 (電話) 0996-86-1017
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年4月16日

【情報提供票より】(平成20年3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	12 人, 非常勤 人, 常勤換算 12 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1 階建ての	階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		650 円

(4) 利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高野医院 児島歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

温暖な気候と豊かな自然に恵まれて、眺めの好い高台に静かにたたずむホームである。自家用の広い畑で採れた食材をはじめ、地元の魚介や野菜を豊富に使った食事が提供されている。母体の医療機関による支援体制が整っており、重度化が進む中で入居者やご家族にとっては大きな支えとなっている。ゆとりのある建物や充実した設備から見て家賃設定は低く、食材費の工夫と合わせて費用負担軽減のための配慮が感じられる。入居者が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように、職員は運営者の理解のもと、献身的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自治会への加入や園だよりの発行など、前回評価における改善課題について具体的な対策が講じられており、評価を活かしてサービスの質向上に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が中心となり、職員にその都度ヒアリングしながら自己評価を行っている。職員の意見は反映されているが全体を通しての関わりが少なく、評価を実施する意義の理解が十分とは言えない。さらなる質向上のためにも今後の取り組みに期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、同一法人のグループホームと協同で、2ヶ月に1回開催している。町の担当者、家族会代表、地域の代表を含む関係者が毎回参加し、ホームの活動内容や評価への取り組み状況の報告の他、第三者委員会の設置など様々な問題を議論している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	園だよりの発行やご家族との面会により、入居者の暮らしぶりや健康状態の報告、新しい職員の紹介等を行っている。ご家族の訪問時や運営推進会議等を通じ、意見、不満、苦情を聞くよう努めている。ご家族より職員の顔と名前が一致しないのでネームプレートを付けてほしいとの申し出があり、現在検討中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に、準会員として加入している。お月見や鬼火焚きなど、地域行事に入居者とともに参加して地元の人々と交流している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が安心して暮らせるように支援する内容で、独自の理念をつくりあげているが、地域密着型サービスとしての視点が十分反映されているとは言いがたい。	○	現在の理念に加えて、入居者が、地域の中で暮らし続けることを支援するという視点を、具体的に盛り込んでいただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基本としたケアを実践するために、毎朝職員全員で理念の唱和を行っている。言葉遣いが悪くなると介護の質も悪くなるとの思いから、特に言葉遣いには注意している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に、準会員として加入している。お月見や鬼火焚きなど、地域行事に入居者とともに参加して地元の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が中心となり、職員にその都度ヒアリングしながら自己評価を行っている。職員の意見は反映されているが全体を通しての関わりが少なく、評価を実施する意義の理解が十分とは言えない。	○	評価の意義や目的を伝えた上で全員が関わり、外部評価の結果も踏まえて改善計画を作製して取り組むなど、サービスの質向上につなげていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、同一法人のグループホームと協同で、2ヶ月に1回開催している。町の担当者、家族会代表、地域の代表を含む関係者が毎回参加し、ホームの活動内容や評価への取り組み状況の報告の他、第三者委員会の設置など様々な問題を議論している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の他、月1回開催される地域ケア会議で町の担当者と連携している。個別に役場の担当者とも行き来する機会も多く、ホームのみならず地域の介護問題にも、ともに取り組んでいる。町の依頼により、管理者が認知症キャラバンメイトとなり、民生委員に対しての講演も予定している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	園だよりの発行やご家族との面会により、入居者の暮らしぶりや健康状態の報告、新しい職員の紹介等を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時や運営推進会議等を通じ、意見、不満、苦情を聞くよう努めている。ご家族より職員の顔と名前が一致しないのでネームプレートをつけてほしいとの申し出があり、現在検討中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、管理者及び計画作成担当者を含め職員の入れ替わりは法人内異動以外は無く、入居者は馴染みの職員による支援を受けている。異動があった場合も、職員がホームをたびたび訪れており、入居者にダメージを与えないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人のグループホームと合同で、毎月勉強会を開催している。また、介護支援専門員や介護福祉士資格取得のために、職員が研修を受講できるような機会を確保するなど、働きながら研鑽できるように配慮している。	○	母体医療機関で開催される勉強会への参加に加えて、関連グループホームとの合同勉強会や地域ケア会議での勉強会について、年間計画等を立てて、職員の知識や経験、役割に応じて、段階的に育成できるような仕組みを構築していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護・福祉関連の事業所と町が協力して、地域ケア会議を組織しており、情報交換や勉強会を行っている。町内には同一法人のグループホーム以外に同業者は無く、隣接する地域のグループホーム管理者と交流を持ちながら、今後のネットワークづくりを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	全ての入居者が、ゆっくりと時間をかけ納得した上で入居しているわけではなく、ご家族の都合等で急な入居にいたるケースも多い。その際は、入居者を極力ひとりにせず、常に職員が寄り添うことで不安感を取り除くように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ちまきづくりや沢庵漬けなどの得意なことや、食事の配膳・後片付け、掃除機かけや洗濯物たたみなど、自分でできることを行いながら職員とともに支えあって過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	水曜日と日曜日の午後を、入居者とのふれあいを特に密接にする時間として位置づけ、それぞれの思いや暮らし方の希望などを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングや引継ぎの際、介護計画の作成に必要な意見を職員それぞれが出し合っている。また、ご家族の意向や医療面に関する主治医の意見を踏まえて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにおいて評価を行い、3ヶ月ごとに介護計画を見直し、ご家族の同意を得ている。また、毎日の申し送り時に入居者に対する気付きや意見を出し合い、期間途中であっても必要に応じて計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、定期的な検診(レントゲンや血液検査)や訪問診療を受けている。また、医療処置を受けながらホームでの生活を継続したり、重度化した場合や終末期の対応など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望により、協力医療機関である母体医院による訪問診療や往診を受けている。協力歯科医院についても、必要に応じて往診を実施していただいている。他科受診に関しては、原則としてご家族に対応していただくが、困難な場合はホームで対応して、受診結果をご家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ターミナルケア説明書」「ターミナルケアについての確認書」「ターミナルケア依頼・受諾書」を適宜使用して、終末期のあり方について話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いが悪くなると介護の質も悪くなるとの思いから、特に職員の言葉遣いには注意することで入居者の誇りやプライバシーにも十分な配慮を行っている。また、狭い地域であるが故に、守秘義務については入職時の指導を徹底するとともに、ボランティアなどホームに出入りする方にも遵守をお願いしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望する日々が過ごせるように、週2回のふれあいの時間を利用して、それぞれの思いや暮らし方の希望などを十分に把握するように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で採れる野菜の他、いただき物の魚や食材が食卓に上がり、入居者と職員が一緒になって準備や後片付けを行い食事を楽しんでいる。誕生会では、主役の方の好きなメニューにするなど工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決めているが、入居者の希望や健康状態に応じて柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭での日向ぼっこや畑の芋掘り、大好きな釣りの話など、役割や楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車での町内見物や初詣など行っているが、買い物や散歩などの日常的な外出支援についてはやや不足している。	○	重度化している場合であっても、入居者に合わせた移動の配慮をしながら、季節を肌で感じ、心身の活性化につながるように、日常的な外出の機会を少しでも増やせるように努めていただきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関に鍵をかけることはない。見守りに徹しているが、万一の場合に備えて、日頃から地域の方々に協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、夜間想定訓練を含めて入居者及び職員全員が参加する年2回の訓練に加えて、心肺蘇生訓練も実施している。日頃より地域の方々への協力要請を行い、訓練には自治会長も参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は母体医院の栄養士が作成しており、栄養バランスに配慮したものとなっている。食事や水分の摂取状況、体重の増減を介護経過に記入し、定期的な血液検査等で栄養状態も確認している。日頃は、特に入浴後の水分摂取を習慣づけることで、水分不足が起こらないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	県道に面してホームが建てられているため交通量が多く、騒音対策として窓は二重サッシになっている。共用空間には草花が飾られ、季節を感じることができるように配慮されている。また、入り込む日差しをよしずで調整するなど、入居者が居心地よく暮らせるよう常に心配りしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた毛布や趣味のゲートボールのスティックが持ち込まれたり、ご家族の写真を飾ったりと、入居者が居心地よく過ごせるような居室となっている。		